

平成30年度年次総会理事長挨拶（2018. 6. 12）

- 理事長の宮内でございます。大学経営協会の平成30年度年次総会の開催に当り、一言ご挨拶を申し上げます。会員の皆様、また多くの関係者の皆様におかれましては、日頃より当協会の活動にご支援ご協力を頂いておりますことに改めて感謝申し上げます。

- 我が国がグローバル競争に打ち勝ち、イノベーションによって持続的成長を実現するためには、科学技術イノベーションを生み出す場である大学が活力を持ち、生産性の向上や新領域への挑戦を始め、最先端のIT技術を使いこなす能力とともに、コミュニケーション能力、プレゼン力などの総合的な人間力をもった人材を育成することが喫緊の課題であります。
しかしながら、世界的な大学ランキング、例えば、**Times Higher Education**のランキング2018では、100以内の大学は2校だけです。（東大46位、京大74位）。また、同じく**Times Higher Education**、のアジア大学ランキングでは、トップはシンガポール国立大学、日本の東大は8位、京大が11位です。たかがランキング、されどランキングです。日本の大学の国際的な地位を上げていく必要があります。そのためには、日本の大学が改革のスピードを上げていくことが大きな課題です。大学学経営協会としては、ガバナンスの強化など、大学経営の改革のために、調査研究や講演会などの事業を通じて、今後とも大学改革に貢献していく所存です。

- さて、昨年、年次総会において、「国立大学におけるガバナンス改革」の提言を紹介しましたが、その後、延べ10回に亘るガバナンス委員会開催後、「私立大学のガバナンス改革について（審議のまとめ）」を取りまとめました。このまとめの要旨は、後ほど北城委員長からご紹介がありますが、例えば、学長選考についての提言としては、学内の教職員のみで選挙だけで選考することは、学内の論理やパワーバランスに偏りがちの選考となり、社会からの信頼・協力・支援は得られないおそれがあるので、広く学外の意見を取り入れた学長選考が望ましいという内容になっています。

- また、大学のガバナンス改革を推進するにあたり、平成23年（2011年）に実施した「大学のガバナンスに関する調査」に続き、今年度改めて「大学のガバナンス調査」を実施しました。この調査の目的は、平成26年（2014年）の、教授会の役割を明確化した学校教育法等の改正後のガバナンスに関する状況や課題を明らかにすることでした。法改正に伴う学内規則の見直しによ

り、学長のリーダーシップを発揮するための体制作りが、国立大学、私立大学双方において整って来ているという、かなり興味深い調査結果が得られました。ただし、体制は整備されているが、学長が真にリーダーシップを発揮して思い切った大学改革を発揮しているかについては、今後も注意深く見守っていく必要があるかと思えます。

- これらの、「国立大学におけるガバナンス改革」、「私立大学のガバナンス改革について」の取りまとめ、および「大学のガバナンスに関する調査」は、文部科学省高等教育局をはじめ、自由民主党教育再生実行本部高等教育部会への要旨説明など、関係方面に対して幅広い活動が出来ました。今後のガバナンスの改革活動については、「教員評価と処遇への反映」を主たるテーマに取り組む所存であります。
- もうひとつの動きとして、「大学のガバナンス改革」とは別に「財務委員会」を再度立上げました。2年毎に実施して参りました「資産運用状況調査」の実施と当面のテーマとして「大学の資産運用に係る責任等について」有識者との意見交換など審議を重ねてゆく所存です。
- 本日の総会審議事項終了のあとは、「高等教育の無償化の動向」についての記念講演会を開催いたします。ここでは、政府の推進する「人生100年時代」を見据え、今後の社会を担ってゆく人材を育成する大学の発展や支援に大きな影響を与える講演が行われるものと期待しております。
- 今の日本は知識集約型社会です。多様な価値観をもち、自分でものを考える、自立できる人間を育てないといけません。しかしながら、大学の関係者には、厳しい言い方になりますが、いまだに20世紀型の工業化社会に必要な人材を供給しているのではないか、先生が満足できる先生のための大学になっているのではないか、その結果、冒頭で紹介した大学のランキングを考えると、国際的にみて競争力のない大学になっているのではないかと危惧します。知識集約型社会に対応した優秀な人材を輩出していくためには、ガバナンス改革を行い、「大学を変えよう」という学長に権限を与えるなど、知識集約化社会に応じたガバナンスが必要だと思えます。
- 私たちは、これまでも我が国の大学改革を支援すべく様々な活動に取り組んで参りましたが、なお一層大学改革に積極的に関わって参りたいと考えております。

会員各位におかれましては、この趣旨を今一度ご理解いただき、当協会の事業活動や大学改革という志を共有頂ける新たな会員獲得に一層のご協力をいただきますよう、お願い申し上げます。

- 以上をもちまして私からのご挨拶といたします。ご清聴ありがとうございました。

以上